

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 93

学校名・団体名	廿日市市立廿日市中学校
HPアドレス	http://www.hatsukaichi-edu.jp/hatsukaichi-j/index-p.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	本気で生きている人の本気の話の本気で聞く！

〈活動・研究の意義、目的〉

本校では「何のために」を理解し語る事ができる生徒の育成、他者の感動に喜びを感じることが出来る生徒の育成を、「目指す生徒像」に掲げ、子供たちが幸せな人生を送ることが出来るよう、様々な角度と視点から授業や行事等を行っている。

特に昨年度からは、「本気で生きている人の本気の話の本気で聞く！」という場面を波状的に設定し、年間を通じて生徒に感動や心が揺さぶられる体験を体感させ、地上の枝葉や花を飾るのではなく、大きな失敗や挫折、困難に生徒が直面しても、決して倒れないような強い根を張り、四方にしっかり伸ばす教育に力を入れている。

本年度も、こうした、生徒の心のスイッチを入れる授業や行事を、波状的に行うとともに、子供たちのみならず、教職員も幸せな人生が送れるよう、授業力向上にもこうした取組みを連動させている。

本気で生きている人の本気の話の本気で聞く！

広島県廿日市市立廿日市中学校

「こんな中学生がまだおったんか。」

体育祭本部席の横にある敬老席から、こんな声が聞こえてきました。

「昔は、みんなこんなラジオ体操をした。何十年ぶりに、こんなに美しいラジオ体操を見せてもらった。本当に感動した。」涙を流されていた方もおられました。

本校では、「何のために」を理解し語ることができる生徒の育成と、他者の感動に喜びを感じることができる生徒の育成を目指しています。

体育祭は、昨年度から、生徒会を中心として、生徒の主体性と自主性を重んじた運営に徹底的にこだわっています。体育祭ではグラウンドに教員の姿を見かけることはありません。放送部の生徒のアナウンス、吹奏楽部の指揮も生徒、入場行進の号令もすべて生徒です。

開会式では、校長の挨拶や来賓の挨拶すらありません。来賓紹介は生徒会長の体育祭開会挨拶の中で行います。体育祭実行委員長が開式宣言や留意事項、本気で体育祭に臨む決意を生徒や観客に伝えます。優勝旗の返還も、もちろん生徒間で行います。

プログラムの最初の準備運動は全校でのラジオ体操です。

ラジオ体操第一のイントロの後、一斉に550名の全校生徒が、天に向かって両手を振り上げます。すると、「ずあっ！」という大きな音がするのです。

見ている者は鳥肌が立ちます。足の屈伸や前屈、上体反らしや跳躍など、550名が同じ動きをすると、常にこうした大きな音が発生します。

こうした音と目の前で展開する本気のラジオ体操が、感動を呼び、体操が終わった後には、大きな拍手が鳴り止みません。アンコールの声もありました。

生徒たちが本気で体育祭を作り上げ、その集大成を観客である保護者や地域の方々、そして教職員に、これでもかと見せ付けるのです。感動しない訳がありません。

もちろん最初からできた訳ではありません。まず、何のために体育祭があるのかについて、生徒たちに問いかけます。体育祭の意義は、体力を付ける為なのか、単に決められた行事に参加するだけなのか、終わった後の達成感や仲間と協力して成功した喜びを味わいたいのか。

つまり、何のために体育祭に参加するのかを生徒たちが理解し、自分の言葉で語ることができてこそ、体育祭の練習への意気込み、上手くいかなかったときの心の持ちよう、挫折から這い上がる方法、そのすべての価値を左右するのだと思っています。

本校が、常に生徒たちに伝えていること。それは、「観客を感動させてごらん。」「先生たちを感動させ、涙を流してもらいなさい。」ということです。そのために君たちは、どういう気持ちで練習すればよいか、どういう決意をして本番に臨めばよいかを常に伝えています。

こうしたことは、生徒たちの夢の実現に大きく影響するものと考えています。冒頭の、「何のために」を理解し、語ることでできる生徒を育成する。他者の感動に喜びを感じることのできる生徒を育成する。これが本校の方針です。

本校では、こうした方針のもと、「本気で生きている人の本気の話の本気で聞く！」という取り組みを、波状的に行い、多感な中学生の時期に、多くの心が揺さぶられる体験を数多くさせています。

一部を紹介します。

平成28年8月には、講演家の古市佳央さんをお招きしました。

十六歳のときに大火傷で将来を無くしたと考え、しかし多くの挫折を乗り越えて、今は全国各地で自分の人生を語り、多くの人に生きる勇気と希望を与え続けている古市佳央さんには、多くの生徒たちの心を揺さぶりました。

昨年度からは、赤ちゃん先生を招き、年間4回～5回の道徳体験授業を行っています。命の大切さや成長の喜びなどを、約20名の赤ちゃん先生たちが、本気で生徒たちに伝えてくれます。

地域の方々を本校に招き地域の活力を学校で生かしてもらおう、「地域支援本部」では、多くの地域住民の方が、花壇の設置や花植えなど、学校の環境整備に生徒たちと共に汗を流していただきました。

また、生徒だけではなく。教職員も、宮城教育大学の相澤秀夫名誉教諭の本気の指導を数度にわたり受け、本気で聞き、教員自らが心が揺さぶられる体験をしました。その結果、授業力向上のみならず、何のために生徒の前に立っているのか。何のために教師を続けているのかを、しっかりと意識できるようになりました。全ては生徒たちが幸せな人生を歩んでくれることにつながっています。

このように、本気で生きている人の本気の話の本気で聞く！という取り組みにより、圧倒的に生徒たちの笑顔が増えました。挨拶の声も大きくなりました。下を向いてとぼとぼ歩く生徒がとても少なくなりました。

今は、笑顔や挨拶などだけかもしれません。しかし、生徒たちが、将来、失敗し、挫折し、苦しみあえぐようなことが目の前に生じた時に、必ず、中学生のときに、本気で生きている人の本気の話の本気で聞いた内容が、よみがえり、生徒たちを助けてくれると強く信じています。